ふるさとのまつり〈三月〉

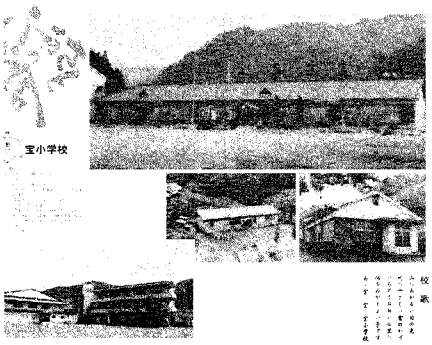
○10日　**琴平さん**
富春寺

○11日　**月おくれの初午**
富士守、熊太郎、藤兵衛などの稲社。特に普門寺の豊川稲荷は大規模である。

○24日　**春まつり**
愛宕社（九鬼）

○25日　**天神社まつり**
落合天神（古川渡）昔は女相撲の奉納があったが、いまは子供相撲の奉納がある。

今月のカレンダー
「宝小学校」



馥郁（ふくいく）たる梅の香りが漂うこの宝の里に春の息吹きを感じ、幾たびかの変遷を経て、歴史の重みを感じさせる宝小学校、児童二〇八名職員十六名の構成で、今日も素晴らしい環境の中で活気ある教育活動が展開されている。

毎朝行われる「宝の時間」火曜日、木曜日の体力つくり、水曜日の「ふれあい」は教師と共に遊具を利用しての運動、金曜日は心の豊かな子を目指して文化活動の実施等々、これと並行してうす着、はだしの生活の励行、職員の研究活動も「主体的に学ぶ児童の育成」を根底に、実践、検証、評価を繰り返すなかで継続している。

この結果二年連続の全国健康優良校、本年度全国学校体育優秀校として全国表彰の栄に輝いた。まさに日々実践の賜と思う。

宝小学校長　後藤唯尊

小山田シリーズ（最終回）

小山田氏の治績

小山田氏を紹介してきたこのシリーズも今回をもって終ることとなりました。

小山田氏を語るには「領主としてどのように領国を治めたか」、ということが大切なのですが、振り返ってみると、ドラマの進行に合わせようとしたためか、戦（いくさ）のことばかり書いたようです。

しかし、武田信玄という稀有の英雄の陰にかくれたためか、あるいは小山田氏の終りが悲惨であったためか、研究者も少なく、これまで小山田氏の歴史は深く掘り下げられることがありませんでした。

史資料も極めて少なく、物語り性の強い理慶尼記や甲陽軍艦のような戦記物に左右されて、一側面しか焦点があてられず、大切な治績については、ほとんど世に知られていません。

そういうわけで数少ない史資料ですが、治績を語るものを一、二紹介しましょう。

まず、立派な行政を行なっていたであろうことは、小山田氏の支配が四百年近い歴史をもつことで証明されます。一つの家系で統治権をこれだけ長く持続できるということは極めて稀で、この事実だけで卓越した行政力があったと見るべきで、越中守信有の葬儀に一万人もの会葬者のあったことがこれを証明しています。（妙法寺記）

滅亡後の資料になりますが、上吉田の人々が後の領主鳥居成次に提出した嘆願書には、小山田氏の時代には雪代（ゆきしろ）によって転住した住民に対して無年貢であったものが、領主が替る度に年貢がふやされていく様子を具体的に記してあります。このことは、小山田氏の温情ある民政を伺わせるものです。（御師（おし）小沢家文書）

台風被害の折には宮林の伐採を許可したり、被害兵には出兵を免除するなどの配慮も妙法寺記に認められます。

同記には、信玄支配になってから、棟別銭や過料銭など新名目の税が課せられ、住民の嘆きが大きいことを記していますが、これは小山田氏の税が軽かったことを意味しています。撰銭（えりせん）の記録もしばしば見られます。黄金と引き換えてまでも鐚銭（びたせん）を駆逐し、貨幣経済の安定を図っていることは、卓越した経済策と識見の高さを伺わせます。

甲・駿・相の三国同盟が破綻し、塩止めを受けた頃、富士参詣者も著しく減少したのですが、この時の対応策として、関銭を半額にするという触書を出し、登山者誘致を図ったことを伝える御師小沢家文書がありますが、まさに現代のディスカウントセールを思わせる経営策であり、素晴しい観光事業家でもあるといえましょう。

武田氏の金山として伝えられている丹波山村の黒川金山のことはともかくとして、奥山村（大月市）や秋山村の金山発掘は、所領関係から考えても小山田氏の鉱山経営と推定されます。

町役や普請役免除を記した、河口湖町の渋江家文書は、民力活性化の処置を意味するもので、現代の地場産業育成優遇処置に通じるものです。

文化人の一面として、大善寺のことを前に記しましたが、吉田の西念寺での連歌会も知られています。また、甲斐国志草稿には、寺社に出された様々の小山田文書が認められ、信仰の厚さや社寺の保護に尽した様子が伺えます。

北条氏との婚姻関係を図ったり（天正寺伝）北条氏から他国衆として小山田氏の所領を現町田市に認めている（小田原衆役帳）のを見ると、外交も怠りなく、相当な手腕家であったことを伺わせます。

数少ない資料ですから、これだけではどのような行政を行なってきたかを詳細に語るのは無理がありますが、これで見る限り、小山田氏四百年の歴史は、領民をしっかり掌握した、行き届いた行政であったように思われます。

このような小山田氏を顕彰しようと、郷土研究会の方々が中心となって、有志の協力のもとに、多額の基金が寄せられ、桂林寺、長生寺、用津院に顕彰碑が建立され、近く除幕式が行われる運びとなっています。これも郡内領主としての歴史の見直しがあったからだと思います。

これまで多分に偏よった見方で小山田氏が理解されてきましたが、このシリーズを通して、小山田氏の歴史解釈が多少でも変ったとするならば幸いです。